

英語論文ライティング・ラウンドテーブル 開催報告

日時：2022 年 3 月 7 日（月）3 時限（13:00-14:30）

形式：オンラインライブ講義

パネリスト：小島直子氏（立命館大学政策科学部准教授）

山崎泉氏（学習院大学国際社会科学部准教授）

※司会・進行：ライアン スティーブン先生（文学学術院教授／総合人文科学研究センター副所長）

使用言語：英語

参加者：文学研究科在籍者 15 名

早稲田大学総合人文科学研究センター（以下、人文研）では、キャリア初期研究者支援の一環として 2018 年度より英語論文ライティング講座を実施している。今回（2021 年度第 2 回）の講座は新たな試みとして、英語による学術書籍出版や論文掲載の業績をお持ちのパネリスト 2 名にカジュアルな雰囲気の中で経験談をお話いただくラウンドテーブルのスタイルを採用した。なお、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて本講座は Zoom を利用したオンラインライブ講義として配信され、文学研究科在籍の大学院生を中心とするキャリア初期研究者 15 名が参加した。

全体の司会・進行は人文研副所長であるライアン スティーブン先生が務められ、講座前半では事前に受講者から寄せられた質問の数々にパネリストの小島直子・山崎泉両氏からご回答をいただいた。パネリストのお二人は質問に答えつつ、英語による成果発信の意義として、より広い層に自分の研究を知ってもらえる点、そしてその目的を達成するよう努めることで研究者として成長できる点を強調されていた。英語論文の掲載実績を多数お持ちの山崎氏からは、経験のないキャリア初期研究者が成果発表の場を選ぶにあたっては同じ分野の研究者に相談してみること、第一歩として大学紀要に英語論文を投稿してみる事等の有用なアドバイスがあった。一方、英語での単著出版のご経験がおありの小島氏からは、出版に至るまでのプロセスを苦労した点なども含めて詳しくご説明いただいた。

講座後半には追加の質問が複数挙がり、質問者本人を交え活発な議論が繰り広げられる様子からは受講者たちの意欲が窺えた。また、パネリストの小島・山崎両氏が一つ一つの質問に対して細かく丁寧に回答してくださったので質問者以外の受講者にとっても有意義な時間だったと思われる。ライアン先生は“it's never too early”という表現をキープフレーズとして、キャリアの初期の段階であっても英語での成果発信に挑戦してみる事の大切さを繰り返し説明されていたが、その挑戦の背中を押すような、非常に充実したラウンドテーブルであった。

以上

（記録：袁甲幸、長谷川隆一、鳩飼未緒）